

COC Monthly News Letter

COC: Center of Community (地(知)の拠点)

Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学の地域貢献活動を毎月1回お届けします。

2016年8月号

Vol.

27



グローバルな知の拠点となる大学
 未来の実践的担い手を育てる大学
 地域に開かれ地域と向き合う大学

Topics

最新のニュース・話題など大学での出来事をお伝えします。

◇甲府市へ移住に関するヒアリング

今年度のCOCプロジェクトの1つ「甲府らしさ」に関する聞き取り調査プロジェクトで、甲府市の生活環境の長所・短所を知ることを目的として、甲府市に最近移住された方へのグループインタビューを、7月8日(金)に山梨県立図書館交流ルーム104にて行いました。このグループインタビューは、山梨県立大学国際政策学部総合政策学科・環境社会学ゼミの演習として、学生6名が参加しました。以下、インタビューした学生からのコメントです。

7月8日(金)に総合政策基礎演習Ⅲ(箕浦ゼミ)の活動で甲府市への移住者の方々にグループインタビューを行いました。4名の移住者の方々から甲府市への移住の経緯や移住後の生活について交通、教育、文化など様々な観点からお話を伺うことができました。東京へのアクセスの良さや豊かな自然、食文化など、移住者目線だからこそ気づく甲府の魅力があるのだと感じ、改めて甲府のまちを見つめ直すことができました。今後のゼミ活動にとって大変貴重な経験となりました。(国際政策学部 2年 千村洋貴)

◇KOFU Travel Map (外国人一人歩きマップ)

「KOFU Travel Map (外国人一人歩きマップ)」は、昨年5月から2ヶ月かけて、山梨県、湯村温泉旅館協同組合、甲府市、山日印刷、山梨県立大学の吉田均教授と同大の学生が共同で作りました。飲食店や観光スポットを英語で紹介する文章、写真を載せたマップで、約2万部印刷し、JR甲府駅の観光案内所や旅館、ホテルなどに置いてあります。このマップ及び「歩くじゃん甲府」(ソフトバンク提供の情報発信媒体)の作成が、外国人観光客の誘致に貢献する活動として評価され、甲府市の湯村温泉旅館共同組合は、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会が主催する第19回「人に優しい地域の宿づくり賞」で、優秀賞を受賞しました。同組合担当者は「マップは外国人から『分かりやすい』と評判がいいので、これからも多くの人を足を運べる旅館づくり、街づくりに努めていきたい」と話しているそうです。



イベント情報

気になる話題の情報やためになる講習会や研修会をご紹介します。

◇2016秋季総合講座

山梨県立大学の各学部を代表する教員等による講座です。ぜひご参加下さい。

開催日: 9月3日(土) 13:30~16:00 (開場13:00)

場所: 山梨県立大学飯田キャンパス講堂(B館1階)

対象: 県民一般 参加費は、無料です。

内容: 【1】右と左 講師: 山本隆司(山梨県立大学理事)

【2】メディアは人生を豊かにするものなのか

講師: 兼清慎一(国際政策学部国際コミュニケーション学科准教授)

【3】自分の体からの『メッセージ』をキャッチしよう!!~まずは、脈拍測定から~

講師: 白田梨奈(看護学部看護学科助教)

申込み先: TEL 055-224-5260 FAX 055-224-5386

Mail: ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

<甲斐絹プロジェクトと合同会社飯田甲斐絹堂>

国際政策学部 国際政策学科 教授 黒羽雅子

甲斐絹プロジェクト（地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について—甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発—）のはじまりは、平成21年度センター共同研究です。国際政策学部の波木井昇先生、人間福祉学部の斉藤秀子先生が中心になって研究会を立ち上げました。平成14年に富士北麓地域の織物職人達が設立した株式会社甲斐絹座によって復刻された「甲斐絹」を題材に、伝統ある山梨県の絹織物産業の歴史を今に受け継ぎ、ビジネス展開の模索を通じてこれを将来世代に引き継ごうという趣旨のものでした。

わたくしがこの研究会に正式に参加したのは、この事業が地域研究交流センターのプロジェクトに採用された平成22年のことです。この事業のビジネスの可能性を探る取り組みの一つとして、黒羽ゼミ2年生7名と助っ人上級生2名による会社設立の模索が始まりました。

学生たちはゼミや課外の勉強会で会社設立の手続きなどについて勉強したり、本プロジェクトに参加し、甲斐絹に関する講演活動を続けている甲斐絹座の前田市郎氏の協力を得て、県内の大学生や高校生に対するアンケート調査を実施したり、学内外で甲斐絹試作品の展示会などを開いたり、ビジネス化に向けて、調査と研究を積み重ねていきました。

平成23年3月合同会社飯田甲斐絹堂が山梨県立大学内に設立されます。この年の秋、甲斐絹座や山梨中央銀行の支援を受けて、主力商品の「甲斐絹名刺入れ」が完成し、本格生産が始まりました。記者発表、販売店開拓、ホームページ制作などの活動を通じて、学生たちはどんどん成長していきました。当初はプロジェクトに参加する大人たちに気後れしていた学生らも、いつの間にかこのプロジェクトのエンジンとなり、研究会でも堂々と意見を言うようになっていました。

「甲斐絹プロジェクト」は平成26・7年度形を変えてCOC事業の一つに加わりました。この事業の助成を得て、甲斐絹の国際展開も実現しました。飯田甲斐絹堂取扱商品の英語・中国語版のパンフレットが完成し、米国ヒューストンで開催された「国際キルトフェスティバル」への甲斐絹の出展も実現しました。「甲斐絹名刺入れ」は本学後援会により卒業記念品に採用され、毎年この名刺入れを持った卒業生たちが全国に散らばり、甲斐絹のふるさと山梨県を宣伝してくれています。「山梨にて学びし証 甲斐絹なる名刺入れ持ち樂立つ若人（数野寛）」



甲斐絹名刺入れ

担当教員紹介 個性派揃いの優秀な教員の意外な素顔を紹介します。

<国際政策学部 国際政策学科 教授 黒羽雅子>



国際政策学部 / 黒羽雅子教授

「日米比較金融史」というのが私の研究領域です。学部時代は理論経済学のゼミを取りましたが、経済史の面白さを教えてくださった恩師が日本金融史の研究者だったのがきっかけで、この道を選びました。最初に取り組んだのは、戦間期、国家による一県一行主義の強力な懲罰のもとで、個々の地方銀行はどのようなプロセスで一県一行を実現していったのか、銀行が銀行でなくなっていく事態に、個別の銀行はどう対処していったのかという課題でした。その答えの一つが地方銀行協会の設立運動と個別銀行の独自の取り組みの模索であったという仮説を論文にしました。それがきっかけで、地方金融史研究会という地方銀行史研究をテーマにする研究会に所属して、その後の研究を積み上げることができました。

博士課程のとき米国の大学に留学しました。留学先の指導教員が州法預金保険制度を研究していた関係で、わたくしも州法制度の研究をするようになりました。日米の比較といっても、日米の比較的小さな銀行を対象にした研究で、あまりに細かいことばかり議論をしているので、近頃はやりの「役に立つ」研究からは程遠いかも知れないと自重しています。飯田甲斐絹堂を通じた地域貢献の活動は、その言い訳のようなものかも知れません。